

高橋 莉音

さん

たかはし りの

優秀賞

中条中学校 3年

We are “The Challenged.”

みなさんは、「ガイジ」や「手帳持ち」といった言葉を聞いたことがありますか。

どちらも「障がいのある人」という意味だそうです。

詳しく言うと、「ガイジ」は、「知的障がい児」の略のようです。また、「手帳持ち」は、「障がい者手帳をお持ちの方」を指すようです。以前よりも、そういった言葉をSNS上で耳にする機会が増えたように感じます。

そのせいか、私の学年でもそのような言葉が時々、聞こえてきます。先生方も、見ている範囲では注意してくださっていますが、その言葉を聞くと悲しくなります。

私は、少しでも早く改善したいと思っていますが、私なんかが注意しても聞き入れてくれないだろうと、何もできないでいました。直接言う勇氣も出ませんでした。

目の前に改善したいことはあるのに、何もできない自分。もどかしくて、できることはないかと、いろいろと調べてみました。「障がいのある人」を、もつといい呼び方で呼べないか、いい響きの言葉はないか探してみました。

そうして見つけた言葉は「The Challenged」。

聞いたことはありませんか。

この言葉は、障がいのある人を前向きに表した言葉です。意味は、「挑戦する使命やチャンス、資格を与えられた人」「神様から挑戦する事を与えられた人」です。一九九〇年代にアメリカで提唱され、日本では、社会福祉法人が中心となつて広められたそうです。

障がいをマイナスと捉えるのではなく、自分の人生や、世の中の向上に生かしていこうという理念があります。

これを知った時、すごく前向きでカッコイイ言葉だと思いました。

そして、ふと気づいたことがあります。た。「挑戦する使命やチャンス、資格を与えられた人」は、全員があてはまるんじゃないかと。地球上の人は、みんな「The Challenged」だと。そう考えると、障がいは、わずかな個性の違いに思えてきます。だれもがみんな「The Challenged」、挑戦する使命やチャンスを与えられた人なのです。

もう一つ、私を変えてくれた言葉があります。それは、みなさんも聞いたことがある言葉かもしれません。

ヘレン・ケラーさんが残した「障がいは、不便だが、不幸ではない。」です。

ヘレン・ケラーさんは、視覚、聴覚、言語障がいを乗り越えて、世界各地で障がい者への教育、福祉の発展へ尽力した人物です。

「障がいは不便だが、不幸ではない。」を聞いて、私ははっとしました。私は「障がいは不便であり、不幸だ」と思っていたからです。私は間違っていました。「障がいのある人は、不幸でかわいそう」という固定観念は変えなくてはならない考え方です。

足が不自由でも、エレベーターがあればだれでもビルの屋上に行けます。目が不自由でも、盲導犬や音声案内があれば歩けます。世の中の設備やしくみを変えれば、たくさんの人が幸せになれます。障がいがあっても、可能性があり、働け

る分野があります。それを最初から諦めるのは、間違った考え方です。

「The Challenged」も、ヘレン・ケラーさんの言葉も、世の中の意識を変える明るい言葉なので、私は大好きです。

こういう言葉が社会に広がってほしいと思います。

だれもがみんな、挑戦するチャンスを与えられた人。障がいがあつて不便なこととはあつても、不幸とは限らない。私は、これらの言葉から勇氣をもらいました。

この次に教室などで「ガイジ」や「手帳持ち」と言っている人を見たら、勇氣を出して「ねえ、それって、The Challengedと呼ぶといいらしいよ。」と教えてあげたいと思います。

今日初めて「The Challenged」という言葉を知ったあなたも、ぜひ使ってみてください。

(原文のまま掲載しています。)

— 講評 —

「The Challenged」と「障がいは、不便だが、不幸ではない。」この2つの言葉を引用しており、わかりやすく、心に響く発表でした。

「The Challenged」は挑戦する使命やチャンス、資格を与えられた人と言い換えられ、誰もが挑戦するチャンスを与えられた人だと述べていました。まさにその通りです。

高橋さんの言葉に勇氣をもらった人も多いのではないかと思っております。